津房地区老人クラブ総会「歩こう会」開催 in 尾立

津房地区公民館便り
編集・発行
津房地区公民館
電話番号
48-2001

５月６日（火）９：００に尾立公民館を出発し，まずは尾立板碑に行きました。津房の郷土史に造詣が深い丸田の小野正雄氏が説明をしてくれました。

「尾立維孝の碑」に行く途中に観源寺があり，小野正雄氏によると，室町時代の地頭（「地域」を管理する有力者）であった津房次郎丸が祖先ということでした。

日本の台湾統治時代に検察官の長として奉職した尾立維孝氏を顕彰した大きな石碑があり、小野氏が説明してくれました

今回の「歩こう会」では，国道を横断するコースもあり、津房駐在の高倉巡査長と長峰駐在の樫崎巡査長が交通指導をしてくれました。「ありがとうございました」。

「歩こう会」のあと，「総会」をしました。今年から津房地区老人クラブの会長に就任の山﨑哲秀さん（右）と挨拶をしている尾立老人クラブ会長の田口憲司さん（左）の後ろに並んでいる賞品を獲得すべく，全員で，スカットボールをしてお昼までのひと時を楽しみました。

御礼

左記のご家庭より香典返しをいただきました。御礼申し上げるとともに、ここに紹介させていただきます。

・板場　藤田　住子　様
（ご夫君　藤田　稔　様ご逝去）

津房地区老人クラブ会長に就任された山﨑哲秀さんが「津房まち協」の役員会で『旧津房小グラウンドの跡地を整備して、グラウンドゴルフができるようにしてほしい』と要望されました。少しでも、津房地区が活性化してほしいとの願いからです。グラウンドが整備されたのちは、ぜひ一緒に楽しみましょう。

津房地区公民館が
災害時避難場所です！

宇佐市危機管理課が「能登半島地震」での集落孤立を教訓に，安心院支所に保管していた防災用備蓄（安心院町分）の一部を「分散備蓄」として本公民館に移しました。

①マット１０枚　②毛布１０枚　③カセットコンロ等　④主食・副食・飲料水５０食分　⑤発電機・投光器等　がまとめられています。

あくまでも「大地震」等で津房地区が孤立した場合の備蓄品なので，昨年のような土砂崩れや河川の氾濫の危険に対する避難の場合にはマット・毛布以外は使用できないとのことです。

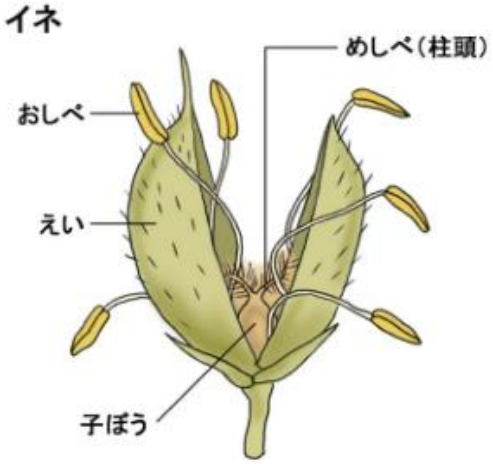
もうすぐ田植えの時期ですが…「イネ」の花と果実の雑学

上の写真が、イネの花です。八月ごろ、緑色の稲穂（いなほ）から白っぽいおしべが顔を出していることで確認できます。一つの花が、のちにお米一粒となるのですが、イラストにしたものが下の図です。ガクも花びらもなく「えい」と呼ばれる緑色のものが、おしべやめしべを守っています。

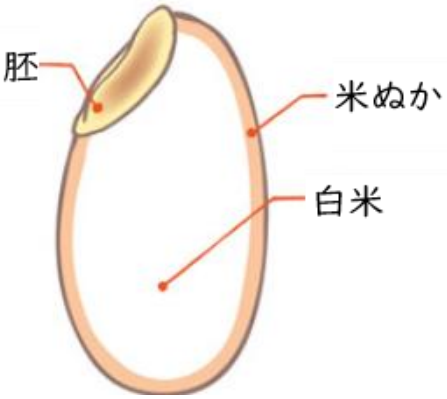
イネの仲間の植物（ムギ・ススキ・エノコログサなど）は、みんな花びらやガクはなく目立たない花をつけます。それは、花を目立たせることで虫に花粉を運んでもらうのではなく、風に花粉を運んでもらうので、目立つ必要がなかったからでしょう。

※風が花粉を運ぶ植物はみんな花が目立たない！

前回の「イチゴの（果）実は種だと思っている部分」の話の時に、めしべの下のふくらんだ部分（子ぼう）が果実になると言いましたね。イネのめしべの下の方もふくらんでいて、ちゃんと子ぼうがあります。



イネの花が受粉をおえて、成長していくと「お米」になります。「えい」はもみ殻になります。もみ殻を籾摺り（もみすり）によって玄米にすると…、左上の図のようになります。



もみ殻を取り除くと果実があらわれるのですから、「玄米」が果実ということになります。果実の中に種子（たね）があり、それが「白米と胚」！

※胚（はい）は発芽して芽や根になる部分で、白米の部分（正式には胚乳という）が養分です。

整理すると、イネの果実は精米するときに削って捨てられる「米ぬか」なのです。（米ぬかは種の皮もふくむ）

ちなみに、殻付き落花生の殻、枝豆（大豆）のサヤも「果実」です。食べませんね！

次回は、リンゴやパイナップルの「果実」のお話。